

# 日本沿岸域学会 研究グループ 研究計画提案書

平成 18 年 3 月 24 日

<b>① 研究テーマ</b>	外洋の「海辺づくり」、絶滅危惧種ハマボウフウの回復、防風林の里山利用								
<b>② 目的</b>	侵食に悩んだ千葉県九十九里浜北端の飯岡は、「安全」「自然」「憩い」をキーワードに「なぎさレフレッシュ事業」によって砂浜海岸の回復を果たした。この度の飯岡町の旭市合併記念として海辺の観光開発が提案され、住民や市民が中心となって「海辺づくり」に取り組もうとしている。外洋に面した海辺づくりは、都市部に面した内湾の取り組みより遅れているために、外洋の海辺の現状を観察・評価する手法を開発することが必要である。また、住民や市民が中心となって「海辺のつくり方」について討議し、人々が憩う「イベント広場」の利用や観光客の受け入れの仕方、施設について研究することを目標とする。								
<b>③ 活動内容</b>	外洋の海辺（九十九里浜、鹿島灘、銚子）について、海辺の歴史、文化や自然など現地踏査を通じて調査し評価を行う。評価方法は環境アセスメントの手法を取り入れ海辺の自然度、生物・生物相の特長、景観、アクセス、安全性、利便施設、海辺の利用度などについて評価する。また、海水浴やサーフィンなどを楽しむ人々・観光客よりアンケートをとり、アメニティの創出の提案をする。また、海岸植生に必要な砂浜幅や砂質、海岸勾配などを調査し生物多様性に必要な砂浜の確保を提案する。絶滅危惧種のハマボウフウの栽培をし、回復をはかる。防風林の松林を里山として手入れをし、松林を利用したアシタバ栽培をする。 外洋でも住民が中心となって里海づくりを始めている。これらの住民と一緒に「海辺のつくり方」について議論し、「外洋の海辺づくり」として報告書を取りまとめる。								
<b>グループの構成</b>	<b>世話人</b>	氏名	会・非	専門分野	所属・役職	住所	電話番号	FAX番号	
	<b>グループ構成員</b>	平塚 四郎	会	海岸工学	東京大学大学院博士課程				
		渡辺 義美	非	地質学	レインボウプラン企業組合理事				
		須藤 彰	非	航空写真	レインボウプラン企業組合専務理事				
		米本 雅男	非	物理学、植生	写真家				
		鈴木 覚	会	海岸工学	海辺つくり研究会				
		廣瀬敏弘	非	観光協会	観光協会役員(飯岡)				
		川上 清	非	漁業	漁業協同組合				
	渡辺 耕平	非	環境安全	千葉科学大学					
<b>顧問</b>	磯部 雅彦	会	海岸工学	東京大学大学院新領域創成科学研究科教授					
<b>⑤ 日程表</b>	<b>研究期間</b>	平成 18 年 6 月～平成 20 年 3 月			<b>開催頻度</b>	1 回/ 3 ヶ月程度の海岸調査を行い、随時研究会で討議する。			
	<b>開催場所</b>	旭市役所、海匝漁協、観光協会、レインボウプラン企業組合			<b>⑥ 研究運営費</b>				